

# 1. 本日の内容

## 1.本日の内容

## ■室内説明(佐土原総合支所 研修室)

- 1. 本日の内容
- 2. 第53回宮崎海岸市民談義所の振り返り
- 3. 全体の海岸保全の方向性と先行着手の検討について



## ■現地見学(動物園東)

バスで移動

## ■談義(佐土原総合支所 研修室)

- 4. 海岸保全の方向性と先行着手の検討に関する談義
  - ・全体の海岸保全に関する談義(エリアごとのイメージなど)
  - ・先行着手の配慮事項(場所、構造など)

## 2. 第53回 宮崎海岸市民談義所の振り返り

- (1)前回の開催状況
- (2)前回の談義内容
- (3)前回の主な意見

### (1)前回の開催状況

- □開催日時:令和6年9月22日(日)13時~16時半
- □場 所:佐土原総合支所 2階研修室
- □参加した市民:10名
- □談義形式:付箋紙を使ったワークショップ形式
- □議事概要:
  - 1. 第52回宮崎海岸市民談義所の振り返り
  - 2. 次なる侵食対策(素案)に関する意見交換【談義】
    - (1)本日の談義
    - (2)事業期間を10年間延長した理由
    - (3)体制・手続き・スケジュール
    - (4)委員会に提案した侵食対策(更新(案))
    - (5)次なる侵食対策(素案)
  - 3. その他







# 現状認識

## (2)前回の談義内容 ~今後の進め方~

事業の現状認識

新たなデ

夕を加え

た更新計画の

確認

デ

タに

よる妥当性確認

①事業の現状認識の共有

- ② 事業進捗の状況
- ③ 事業計画変更の必要性
- ① 市民との談義および専門家と の協議により目標を共有
- ②技術検討と市民との談義を実 行し、新たなデータを加えた更 新計画の内容を確認
- ③ 更新計画における侵食対策を検討
- ④ 更新計画における対策に着手

- ① 市民との談義および専門家と の協議により目標を共有
- ② 更新計画における対策の効果 の調査
- ③ 更新計画における対策に修正 ・改善を加えて、対策を着実に 推進

前々回(R6.7.29開催)の談義

#### 事業の状況

- ・事業の進捗状況
- ・合意形成の状況

#### 事業計画の見直しの必要性

- ・対策工法見直しの必要性
- ・事業期間延長の必要性

前回(R6.9.22開催)の談義

#### 土砂移動状況の検討

・海象・測量データ等に 基づく土砂動態の把握

#### 海岸保全の方向性の検討

・区域毎の特性を踏まえ、 海岸保全の方向性を設定

#### 各施設等の機能の検討

・浜幅を回復するための施設・動きにくい粒径の大きな 養浜などについて機能を検討

#### 更新計画による対策効果の確認など

- ・対策による浜幅回復(数値シミュレーションなどによる検討)
- ・景観(3Dモデルなどによる検討)
- ・段階的な整備の手順(どこに・なにを・いつ)

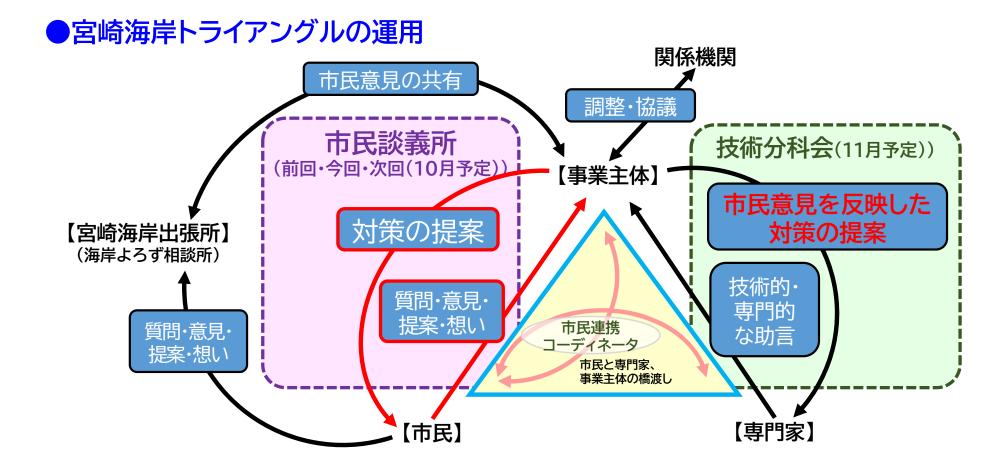
#### 更新計画における対策の実施

※令和6年度中に次なる対策の一部着手を目指したい!

更新計画における対策の効果を現地で確認 (効果検証)

#### (2)前回の談義内容 ~体制・手続き・スケジュール~

- ■体 制:引き続き、「宮崎海岸トライアングル」、「宮崎海岸ステップアップサイクル」により進める
- ■手続き:市民談義所、技術分科会を複数回開催し、十分に談義・検討する その中で、海岸保全の方向性となる「次なる侵食対策」を策定する
- ■スケジュール:先行して実施する場所を決定し、年度内の工事発注を目指す



## (2)前回の談義内容 ~更新(案)の考え方~



### (2)前回の談義内容 ~各地区の保全の方向性~

■エリア分け:既存施設と利用、環境、背後地の状況等を踏まえ、エリア 区分して対策を検討する

#### ○住吉エリア、石崎浜エリア

・コンクリート護岸や突堤があり、砂浜が少ない地区

#### ○動物園東エリア、大炊田エリア

・砂浜が比較的広く、サーフィン等の利用やアカウミガメの上陸・産卵、海浜植生等、自然環境が豊かな地区



### (3)前回の主な意見(コーディネータのまとめ)

- ○本日は更新する今後の宮崎海岸の侵食対策計画について談義した。専門家に参加いただき、小突堤を増やして砂浜を回復していくことの技術的な考え方を解説頂いた。300mの長い突堤であれば設置間隔を広くでき、短い小突堤であれば狭い間隔で砂浜を捕捉できるという考え方をみなさんで共有できたことがひとつ目の大きな成果と考えている。
- ○今後は突堤だけではなく礫養浜などの活用も考えながら新しい更新する計画の進めていくに際して、具体的に進めていくときに市民の目線で様々な立場から、留意して欲しいことを出し合って共有できたことがふたつ目の大きな成果と考えている。
- ○礫養浜の導入においては、材質や投入方法などをアカウミガメの上陸・産卵、稚力メの降海などに十分に配慮してほしい、という意見が多く挙げられた。
- ○突堤に関しては設置する効果などの考え方を共有できたと考えている。一方、どこに設置するかについては様々な考え方を共有したところであり、その中のひとつの案として傾斜護岸区間に設置し、砂浜がつくのであれば大きなメリットである。住吉は、既設護岸が海側に張り出していて砂浜を回復するのが難しい地形条件であるということを共有した。
- ○これらの意見等を踏まえ、どこの場所から進めていけばよいかを今後検討する段階 になったと考えている。

## 3. 海岸保全の方向性と先行着手の検討について

- (1)海岸保全の方向性について
- (2)先行着手の検討について
- (3)スケジュール(案)

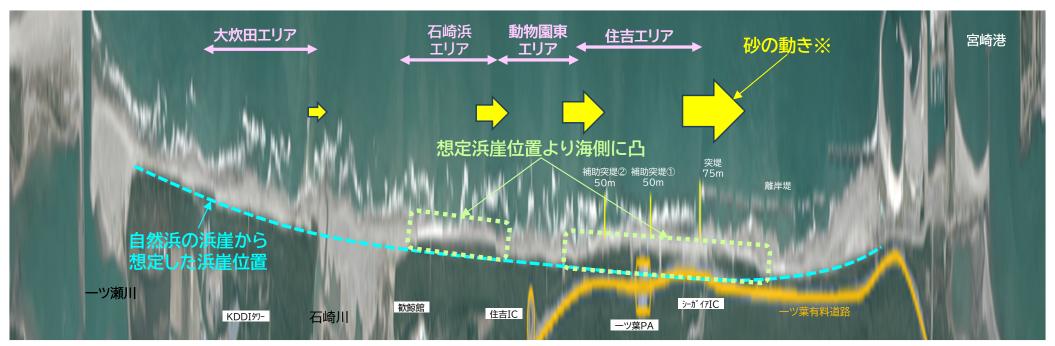
#### (1)エリアごとの海岸保全の方向性について

- 今回の談義所では新たに地形や砂の移動等の技術的な要素も入れ、各エリアごとの方向性(案)を検討
- ▶ 宮崎海岸を全体でみると、先行着手の技術的な課題が多い「住吉エリア」と住吉エリア より課題が比較的少ない「大炊田・石崎浜・動物園東エリア」に大別できる
- → 砂浜を回復させるために、まずは先行着手の技術的な課題の比較的少ない「大炊田・ 石崎浜・動物園東エリア」の対策を実施する

エリア	大炊田	大炊田 石崎浜		住 吉				
砂の移動	少ない	やや多い	多い	非常に多い				
護岸の位置	海岸線に平行	海側に凸	海岸線に平行	海側に凸				
護岸の種類	埋設護岸	コンクリート護岸	埋設護岸	コンクリート護岸				
先行着手の 技術的な 難しさ	'	べて砂の移動だ で砂浜回復でも		・既設突堤+養浜で砂浜回復が見られない ・護岸が海側に出っ張っていること、砂の移 動が最も激しく砂浜の回復が最も困難				
海岸保全の 方向性(案)	' ' ' ' ' ' ' ' ' ' ' ' ' ' ' ' ' ' '	夏を目指し、速 の効果を確認		・様々な観点(技術分科会委員より離岸堤整 備の意見も挙げられている)から十分に検 討し、対策を慎重に進める				



#### ■縦方向に10倍に引き延ばした空中写真



※これまでの検討より、北から南への移動が大きいことが分かっていることから砂の動きの大きさを矢印の大きさでイメージとして表した



#### ■石崎浜〜住吉エリアをクローズアップした空中写真





#### 2. 南への流出土砂を減らす対策内容

- 21 -

- (1)-3)第15回技術分科会の報告 ④議事概要(抜粋)3/4
- ●第15回技術分科会(令和6年3月11日開催) 議事概要(3)
- ■南への流出土砂を減らす対策内容の設定について
- ●小突堤と養浜による対策について
- ○当初計画と比較すると、突堤を延伸できない、という制約が追加されている。この<mark>制約を踏まえたうえで、小突堤と礫養浜の組合せは現時点でベストの対策</mark>、という整理になると思う。詳細な検討を進めていく際には、以下の事項について十分に検討する必要がある。
  - ①突堤長は50mと設定しているが、堤長が長いほど土砂の捕捉効果は高いため、過去の汀線位置等を踏まえて、設置可能な堤長についても関係者と調整・協議していくことが必要である。
  - ②小突堤に波浪低減効果はないため、安定する礫の粒径を検討する必要がある。
  - ③安定する礫の粒径は10cm以上といった大きな粒径になる可能性がある。環境面、利用面から、どの程度の粒径まで許容できるかを確認する必要がある。
  - ④一連のコンクリート護岸の既設突堤区域は礫養浜で整備し、それ以外の区域は通常の粒径の養 浜を行うなど、調達可能量の観点も含め、区域の特性に応じた対策を検討する。
  - ⑤国直轄事業終了後は宮崎県が引き継ぐため、県で維持管理が可能な対策とする必要がある。
- ○背後地への越波被害を防止するために、「浜幅50mの確保」を全域で達成することを目指しているが、目標浜幅50mの確保が見込めない区間が発生する可能性もある。
- ○その場合には、その他の対策(離岸堤等)や目標浜幅の見直しの可能性について委員会で承認してもらう必要があり、検討の条件についても、宮崎海岸トライアングルで再度検討する必要がある。
- ○礫養浜や離岸堤については、市民から否定的な意見が出ることも想定される。

#### (2)先行着手の検討について 1)エリアの特徴

- ▶ 先行着手するエリアは、動物園東~大炊田エリアの中から以下の観点で検討する
  - ・効果発現が見込まれ、砂浜を早期に回復することが望ましいエリア
- ▶ 上記の観点から最も特徴的な「動物園東エリア」を本日の見学エリアとする

※先行着手のエリアについては委員会、技術分科会で承認されていません 次回の技術分科会(12月開催予定)で技術的・専門的な助言を受ける予定です

	砂浜早期回復の観点					
エリア	浜幅砂浜の状態		砂の動きに対する位置 (北から南への移動が多い)			
動物園東	狭い	自然浜(埋設護岸)	南側			
石崎浜	狭い	コンクリート護岸	中間			
大炊田	やや広い	自然浜(埋設護岸)	北側			



## (2)先行着手の検討について 2)動物園東エリアの状況

- ▶ 動物園東エリアは、自然浜(埋設護岸)であり、アカウミガメの産卵場となっているとともに、アクセス道もあり、サーフィン、釣り、散策等の利用も盛んである
- ▶ 浜幅は狭く、サンドパックの露出によりアカウミガメの上陸や海岸利用に支障が生じる場合も多くある。また、住吉ICと浜崖の距離は短く、高波浪時の越波被害等の危険性が高い



### (2) 先行着手の検討について 3) 現地で確認するポイント

- → 台風時期などに南からの波による北向きの土砂の移動を抑える北側を現地で確認するポイント1とする
- ➤ 住吉IC前の浜崖後退を防ぐために、住吉IC前の南側をポイント2とする
- 動物園東エリアの砂の動きの下手側である南側をポイント3とする



ポイント	期待する効果	詳細に検討が必要な事項
1	・台風時期などに南からの波による北向 きの土砂の移動を抑える	・通年の南向きの土砂移動を抑えるため、動物園東エリアの砂浜が後退する可能性がる
2	・動物園東エリアの浜崖後退を防ぐ ・自然浜の砂の移動を直接抑える	・台風時期の高波浪等により、施設周辺の砂浜が後退する可能 性がある ・サンドパックの間に施設を設置した事例はない
3	・通年では流れが北から南に卓越してお り南向きに流れる土砂を捕捉する	・北向きの土砂移動の場合には、動物園東エリアが後退する可能性がある

#### 参考: 先行着手の候補 ポイント1(動物園東エリアの北側)



#### 参考: 先行着手の候補 ポイント2 (動物園東エリア内)





#### 参考: 先行着手の候補 ポイント3 (動物園東エリアの南側)





## (3)スケジュール

		令和6年度										
			6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	市民談義所	主な 内容	(委員会等 の報告)	・現状認識		・海岸保全 の方向性 ・施設につ いて		・対策着手 に向けて (現地談義)	・先行して 着手する箇 所(案) ・計画素案	・計画素案		·計画案 ·計画策定
	※色文字は 報告	会議	第51回	第52回 ●		第53回 ●		第54回 ● ■	第55回	第56回		第57回
	技術分科会							今回	● <b>」</b> 第16回		第17回	
	委員会								第24回 <b>▶</b> ●			第25回
工事	養浜											
	突堤等(予定)											

※談義の内容等によりこのスケジュールは変更する場合があります

4. 海岸保全の方向性と先行着手の検討に関する談義

- 談義の項目:海岸保全の方向性と先行着手の検討に関する談義
- ■談義の進め方
- ○海岸保全に関すること、先行着手の検討に関すること等について、 みなさんに質問・意見・提案・想いなどを付箋紙に書いて頂きます

#### 付箋紙:質問・意見・提案・想いなど

- ・海岸保全の方向性に関する質問・意見・提案
- ・先行着手の検討に関する質問・意見・提案
- ・対策の実施において 利用・環境などで配慮してほしいこと
- ・宮崎海岸に関する想い など

#### ○付箋紙を見ながら談義します

## 5. その他